

# グリーン・トピックス

北海道立林業試験場

No.13

## 河畔林と魚の関係



河畔林のある川

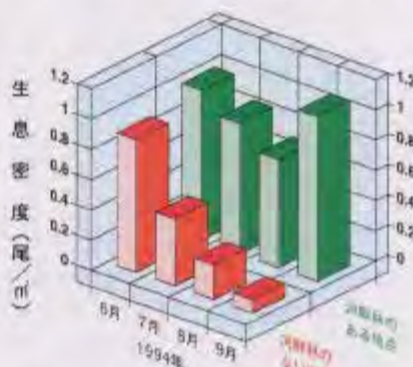
サクラマス幼魚

林業試験場では、魚にやさしい森づくりを目ざして、サクラマスと河畔林の関係について道立水産孵化場と共同研究を始めました。サクラマスは、水産資源として重要なだけでなく、ヤマベとして釣り人にも親しまれています。

後志支庁管内積丹川における、孵化後1年に満たないサクラマス幼魚の生息密度の季節変化を図に示します。河畔林のない地点の生息密度は、河畔林のある地点に比べて著しく減少しています。このことから、河畔林がサクラマスの生息に良い効果をもたらすことが明らかになってきました。

サクラマスの生息に良い影響を与える河畔林の効果としては、樹冠が日射をさえぎり、河川水温を低く保つことがあげられます。低い水温を好むサクラマスは、23～25℃以上の高い水温では生息困難になるからです。また冬期には、サクラマスは水深が深く流速の遅い淵と呼ばれる場所を好むので、川に倒れ込む河畔の樹がつくる淵も彼らにとってよい越冬場となっているのです。さらに産卵場所についても、河畔林が川に張り出したカバ一部分に多くみられます。

このように河畔林は、サクラマスにとって好適な生息環境を提供しているのです。



サクラマス幼魚の生息密度の季節変化